

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員一 人あたりの 在籍学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
健康科学 部リハビ リテーシ ョン学科 理学療法 学専攻	5人	2人	4人	1人	12人	9人	12人	0人	43人	19人	
計	5人	2人	4人	1人	12人	9人	12人	0人	43人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
○	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則  教育内容	相当授業  科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	建学の精神	15	古澤敏昭・和田藍子・近藤貞子・川畑なみ	専任および兼任
		心理学	15	河原剛	兼任
		ヒロシマのこころ	15	川畑なみ 他	専任および兼任
		生命科学概論	15	猪村剛史	兼任
		哲学	15	関村誠	兼任
		法と人権	15	大田晋	兼任
		教育概論	15	金原遼・古井戸祐樹・古殿真大	兼任
		比較文化論	15	浮田三郎	兼任
		社会と平和	15	丸岡清枝	兼任
		医療経済政策論	15	鈴木誠志	兼任
		ボランティア論	15	吉清有三	兼任
		アカデミックリテラシー	15	江越正次朗 他 PT・OT 教員	専任および兼任
		物理学	15	松本雅樹	兼任
		生物学	15	松尾茂	兼任
		統計学	15	村澤昌崇	兼任
		コミュニケーション技法 I	8	高島千敬 他 PT・OT 全教員	専任
		コミュニケーション技法 II	8	高島千敬 他 PT・OT 全教員	専任
		LearnerEnglish I	15	相原健人	兼任
		CommunicativeEnglish I	15	柳原里枝子	兼任
		AcademicEnglish I	15	相原健人	兼任
LearnerEnglish II	15	相原健人	兼任		
CommunicativeEnglish II	15	柳原里枝子	兼任		
AcademicEnglish II	15	相原健人	兼任		

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則  教育内容	相当授業  科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	中国語入門	15	范叔如	兼任
		韓国語入門	15	李賛任	兼任
		英会話	15	James Patrick Lindley	兼任
専門基礎 分野	人体の構造と機能及 び心身の発達	体表解剖学	15	伊藤祥史・中川敬 汰・谷岡龍一	専任
		人間発達学	15	平尾文	専任
		生理学Ⅰ	15	牧田亨介	専任
		生理学Ⅱ	15	牧田亨介	専任
		生理学実習	23	牧田亨介 他	専任
		解剖学	30	牧田亨介	専任
		解剖学演習	30	牧田亨介	専任
		栄養学・生化学	15	三好真理・村本圭子	兼任
		運動学	15	谷岡龍一	専任
		運動学実習	15	伊藤祥史・谷岡龍一	専任
	疾病と障害の成り立 ち及び回復過程の促 進	リハビリテーション医学・医療	15	甲田宗嗣 他	専任及び兼 任
		小児期発症疾患の障害学	15	馬屋原康高	専任
		病理学	15	達家雅明	兼任
		救急処置法	8	内海秀・菊谷知也・ 石井潤貴・太田浩平	兼任
		神経内科学総論Ⅰ	15	菊本修	兼任
		神経内科学総論Ⅱ	15	馬屋原康高 他	専任
		一般臨床医学Ⅰ	15	土井謙司	兼任
		一般臨床医学Ⅱ	15	土井謙司	兼任
		整形外科学総論Ⅰ	15	松本治之	兼任
		整形外科学総論Ⅱ	15	松本治之	兼任
		精神医学総論Ⅰ	15	甲田宗嗣・宮崎洋 幸・川畑なみ	専任
		精神医学総論Ⅱ	15	甲田宗嗣・宮崎洋 幸・川畑なみ	専任
		臨床心理学	15	河原剛	兼任
	老年期障害学	15	藤井紀文	専任	
	保健医療福祉とリハ ビリテーションの理 念	チーム医療論	8	馬屋原康高 他	専任および 兼任
		ヘルスプロモーション論	8	藤村昌彦	専任
		公衆衛生学	15	牧田亨介	専任
		社会福祉と地域包括ケア論	15	平岩和美	専任
		医療福祉と経済	15	田中雅康・古澤泰治	兼任
		スポーツ理論と実技	15	山口浩二	兼任
		人間の行動と健康	8	高井節夫	兼任

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	15	甲田宗嗣	専任
		予防理学療法学	15	平岩和美・藤村昌彦	専任
		理学療法支援工学	8	馬屋原康高	専任
		臨床運動学	15	谷岡龍一	専任
		問題解決型実践演習Ⅰ	8	甲田宗嗣・藤村昌彦・伊藤祥史・平岩和美・馬屋原康高・上川紀道・石倉英樹・江越正次朗・谷岡龍一・藤井紀文・田邊淳平・中川敬汰	専任
		問題解決型実践演習Ⅱ	8	甲田宗嗣・藤村昌彦・伊藤祥史・平岩和美・馬屋原康高・上川紀道・石倉英樹・江越正次朗・谷岡龍一・藤井紀文・田邊淳平・中川敬汰	専任
		理学療法学研究法	15	藤井紀文	専任
		卒業研究		甲田宗嗣・藤村昌彦・伊藤祥史・平岩和美・馬屋原康高・上川紀道・石倉英樹・江越正次朗・谷岡龍一・藤井紀文・田邊淳平・中川敬汰	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	8	藤村昌彦	専任
		理学療法倫理学	8	谷岡龍一	専任
	理学療法評価学	基礎理学療法評価学	8	甲田宗嗣	専任
		基礎理学療法評価学演習	15	石倉英樹・中川敬汰	専任
		理学療法評価学Ⅰ	15	石倉英樹	専任
		理学療法評価学演習Ⅰ	15	石倉英樹・中川敬汰	専任
		理学療法評価学Ⅱ	15	江越正次朗	専任
		理学療法評価学演習Ⅱ	15	江越正次朗・谷岡龍一	専任
	理学療法治療学	基礎運動療法学	15	伊藤祥史	専任
		基礎運動療法学演習	15	伊藤祥史・上川紀道	専任
		物理療法学	15	石倉英樹	専任
		物理療法学演習	15	石倉英樹・藤井紀文・中川敬汰	専任
		神経系理学療法Ⅰ	15	田邊淳平	専任
		神経系理学療法演習Ⅰ	15	田邊淳平・藤井紀文	専任
		神経系理学療法Ⅱ	15	甲田宗嗣	専任
		神経系理学療法演習Ⅱ	15	甲田宗嗣・田邊淳平	専任

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員		
				氏名	職名 (専任・兼 任)	
専門分野	理学療法治療学	運動器系理学療法学	15	上川紀道	専任	
		運動器系理学療法学演習	15	上川紀道・江越正次朗	専任	
		小児理学療法学	15	馬屋原康高	専任	
		小児理学療法学演習	15	馬屋原康高・石倉英樹	専任	
		内部障害理学療法治療学Ⅰ	15	馬屋原康高	専任	
		内部障害理学療法治療学Ⅱ	15	江越正次朗	専任	
		内部障害理学療法治療学演習	15	江越正次朗・馬屋原康高	専任	
		義肢学	15	田邊淳平・大塚彰・中川敬汰	専任および兼任	
		装具学	15	田邊淳平	専任	
		老年期理学療法治療学	8	藤井紀文	専任	
		産業理学療法学	8	藤村昌彦	専任	
		スポーツ障害理学療法学	15	上川紀道	専任	
		応用理学療法特論	15	甲田宗嗣・藤村昌彦・伊藤祥史・平岩和美・馬屋原康高・上川紀道・石倉英樹・江越正次朗・谷岡龍一・藤井紀文・田邊淳平・中川敬汰	専任	
	地域理学療法学	日常生活活動学	15	平岩和美	専任	
		日常生活活動演習	15	平岩和美・谷岡龍一・中川敬汰	専任	
		生活環境学	15	平岩和美	専任	
		地域理学療法学(含在宅理学法)	15	藤村昌彦	専任	
	臨床実習	臨床見学実習			甲田宗嗣・藤村昌彦・伊藤祥史・平岩和美・馬屋原康高・上川紀道・石倉英樹・江越正次朗・谷岡龍一・藤井紀文・田邊淳平・中川敬汰	専任
		臨床地域実習			甲田宗嗣・藤村昌彦・伊藤祥史・平岩和美・馬屋原康高・上川紀道・石倉英樹・江越正次朗・谷岡龍一・藤井紀文・田邊淳平・中川敬汰	専任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
専門分野	臨床実習	臨床実習学内演習	/	甲田宗嗣・藤村昌彦・伊藤祥史・平岩和美・馬屋原康高・上川紀道・石倉英樹・江越正次朗・谷岡龍一・藤井紀文・田邊淳平・中川敬汰	専任
		臨床評価実習		甲田宗嗣・藤村昌彦・伊藤祥史・平岩和美・馬屋原康高・上川紀道・石倉英樹・江越正次朗・谷岡龍一・藤井紀文・田邊淳平・中川敬汰	専任
		臨床総合実習Ⅰ		甲田宗嗣・藤村昌彦・伊藤祥史・平岩和美・馬屋原康高・上川紀道・石倉英樹・江越正次朗・谷岡龍一・藤井紀文・田邊淳平・中川敬汰	専任
		臨床総合実習Ⅱ		甲田宗嗣・藤村昌彦・伊藤祥史・平岩和美・馬屋原康高・上川紀道・石倉英樹・江越正次朗・谷岡龍一・藤井紀文・田邊淳平・中川敬汰	専任
	—	音楽療法	8	栗野真湖	兼任
		動物介在療法	8	川嶋舟・高橋憲子	兼任
		園芸療法	8	高松雅子	兼任

【自己評価 2-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床見学実習 (臨床の見学を通して理学療法士の役割を学び、情報収集を通じて疾患と対象者の全体像を理解する経験)	2年前期	理学療法概論	1年前期
		チーム医療論	1年後期
		基礎理学療法評価学・演習	1年後期
臨床地域実習 (地域リハビリテーションを見学し、利用者の生活を支援する考え方を学ぶ経験)	2年後期	予防理学療法学	2年前期
		地域理学療法学	2年後期
		地域包括ケア論	2年後期
臨床評価実習 (疾患や障害に合わせた評価を行い、評価から治療、介入に至る理学療法士の思考過程を経験)	3年後期	理学療法評価学Ⅰ・演習	2年前期
		理学療法評価学Ⅱ・演習	2年後期
		臨床実習学内演習	3年前期
臨床総合実習Ⅰ (評価に基づく治療・介入の立案と指導の下に基本的な治療・介入を経験)	3年後期	運動器系理学療法学演習	2年後期
		神経系理学療法学演習Ⅱ	3年前期
		内部障害理学療法治療学Ⅰ・Ⅱ	3年前期
		義肢学・装具学	3年前期
		問題解決型実践演習Ⅰ	3年後期
臨床総合実習Ⅱ (評価に基づく治療・介入の立案と指導の下に基本的な治療・介入を経験)	4年前期	問題解決型実践演習Ⅱ	4年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
○	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	点検評価実施委員会
委員名（委員長）	古澤 幸治
組織の開催頻度	原則として毎月1回開催
組織の取り組み内容	・全学を対象とする自己点検・評価の実施に関する事項
	・学部および事務局を対象とする自己点検・評価の実施に関する事項
	・学生による授業評価、教育環境改善のためのアンケートの実施に関する事項
	・点検・評価報告書の作成および自己点検運営委員会への報告に関する事項
	・自己点検運営委員会から出された改善の指摘・勧告に対する実施計画の策定および実行に関する事項
・その他、全学の自己点検・評価を実施する上で必要とされる事項	
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： <a href="https://www.hcu.ac.jp/guide/disclosure/jikoten/">https://www.hcu.ac.jp/guide/disclosure/jikoten/</a> ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務委員会、FD委員会
	委員構成等	（教務委員会）教務部長、教務委員会構成員 （FD委員会）FD委員会構成員
	改善の仕組みの実際	教務委員会においてシラバス掲載項目を策定し、記載例を提示している。シラバス掲載項目および記載例の策定にあたっては、FD委員会において授業評価アンケート結果を集計・分析し、その内容を踏まえて教務委員会と連携し検討している。 また、シラバスの記載内容の適正について、事務局による点検（記入漏れ、誤記、情報不足等の形式上のチェック）を行っている。

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

認証評価委員会において、全学的な内部質保証方針である『内部質保証のための全学的方針及び手続』を策定している。同方針（①内部質保証の定義、②自己点検運営委員会と点検評価実施委員会の権限分担、③改善サイクルとエビデンス管理手順）に基づき、点検評価実施委員会および自己点検運営委員会を中心として運用を行い、継続的な改善に取り組んでいる。